

令和元年度農林水産技術会議開催結果

水産技術センター

開催日	令和2年1月22日	開催場所	水産技術センター・内水面試験場
部会名	研究課題設定部会		
評価課題	芦ノ湖におけるワカサギの資源量調査		
評価委員	(国研) 水研機構 中央水産研究所 沿岸・内水面研究センター 研究員 芦之湖漁業協同組合・代表理事組合長		
評価概要	<p>全国的にワカサギ卵が不足している。芦ノ湖において適正な放流時期や産卵場が明らかになれば、効率的な仔魚放流が実現し、余剰卵を他の湖へ供給出来るようになる。産卵場についても、人工産卵場の造成など新しい技術に資するためのデータとして重要性が高い。人工産卵床の実験において、枠の上に石を置く方法や耳石の日輪解析に新規性がある。本調査はワカサギの資源管理に繋がる重要な一歩となる。</p> <p>ワカサギの安定供給の研究については漁獲方法も含めたニーズがある。本調査に協力して、他県にも配布できるよう卵の安定供給を目指し、内水面漁業に貢献したい。ワムシとふ化仔魚の知見がほとんど無いので解明して欲しい。</p>		

開催日	令和2年2月4日	開催場所	水産技術センター
部会名	研究成果評価部会		
評価課題	気候変動により資源が増大する暖海性魚類の活用		
評価委員	東京海洋大学 教授 三和漁業協同組合 指導漁業士		
評価概要	<p>本課題は全国的に取り組むべき大切な課題である。磯焼けの主な原因生物であるアイゴについて、駆除と利用の両方を満たすことは非常に重要である。食用に適するよう成分特性に基づいて、利用方法を見出した。特に最近では生食志向が高まっており、そういう消費者ニーズに焦点を絞ったところも優れた成果である。餌となる海藻類の臭気成分が非常に重要なポイントであり、沖縄県産との違いを明確にしたうえで、神奈川県産を食べる方法に繋げて行くという研究項目・研究手法は適切であった。十分普及可能な研究成果であり、波及効果も大きいと考えられる。目標に対して実用性のある研究成果が挙げられたと評価できる。</p> <p>アイゴを駆除しているが、有効利用できていなかった。臭いの成分をデータとして明示されたことが良かった。脱血処理により美味しい試食品が出来ており、商品化を考えていきたい。今後は、定置網の大量の鮮魚の有効利用についても研究を進めて頂きたい。</p>		